

2022年度 日本工学院専門学校											
建築学科											
高度資格対策 3											
対象	4 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	松村 哲志			実務経験	有	職種	建築設計／一級建築士				
担当教員紹介											
アトリエ系設計事務所において商業建築、住宅などの設計・監理の業務経験を持つ。また独立後は建築設計事務所を主宰している。設計、まちづくりの分野を専門とする。											
授業概要											
教科書を用いた講義により通常授業で学んだことから試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた演習と解説を行うことで、2級建築施工管理技士同等の実践的知識の習得を行う。同時に模擬試験を行い、実践力を養う。1級建築士はプリントを配布して解説を行う。											
到達目標											
2級建築施工管理技士試験と同等レベルの問題について70%以上の正解率を上げられることを目標とし、それと同等の知識の修得を目指す。そのためには、過去10年以上の試験問題について精査し幅広い内容の中から定番となる問題を中心に理解し、余裕のある項目については各自が判断して難問にも挑戦し高得点につながるようにレベルアップを図る。さらに1級建築士の資格対策として、過去問題のプリントを配布しながら解説を行い、卒業後に独学でも勉強できる素地をつくる。											
授業方法											
目標達成のため下記授業内容詳細により授業を展開する。											
成績評価方法											
試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する									
小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
これまで一般構造・建築材料・建築生産・計画・環境工学・法規などとして分野ごとに学んだ内容を、建築の総合的な知識として学び直すこと。過去6回分の問題集は主に自宅学習で繰り返し解き、模擬試験で実力を確認すること。また、卒業後に受験するときのために、問題の解き方のテクニックを身に付けること。											
教科書教材											
2級建築施工管理技士学科テキスト(2020年度)、2級建築施工管理技術検定過去6回試験問題											
回数	授業計画										
第1回	仕上げ工事 防水工事、左官工事、ガラス・建具工事、塗装工事などの理解										
第2回	労働基準法 労働基準法、労働安全衛生法などの理解										
第3回	施工計画、工程計画 事前調査、書類と届け出、工程表などの理解										
第4回	その他の法規 騒音・振動規制法、産業廃棄物、建設リサイクル法などの理解										
第5回	品質管理、安全管理 品質計画とQC、材料の保管、作業主任者の業務などの理解										

2022年度 日本工学院専門学校		
建築学科		
高度資格対策 3		
第6回	1級建築士 計画 1	近代の日本建築史および西洋建築史の理解
第7回	1級建築士 施工 1	請負契約・施工計画などの理解
第8回	1級建築士 計画 2	住宅・商業施設・公共建築などの計画の理解
第9回	1級建築士 施工 2	品質管理・安全管理・工程管理の理解
第10回	1級建築士 計画 3	高齢者や環境に配慮した建築計画の理解
第11回	1級建築士 施工 3	仮設工事計画の理解
第12回	1級建築士 環境 1	日照・採光・照明などの環境管理に関する理解
第13回	1級建築士 施工 4	地盤調査・土工事の理解
第14回	1級建築士 環境 2	換気・結露・音響などの環境管理に関する理解
第15回	1級建築士 総合	総合演習と確認テストの実施